

仙台の次世代経営者 presence 対談



(株)清月記専務取締役
菅原 啓太氏

すがわら・けいた
1988年仙台市生まれ。中央大学経済学部卒業。(株)清月記専務取締役。2021年1月、公益社団法人仙台青年会議所第70代理事長就任。趣味は旅行。

連載
第16回

仙台、日本を拠点に、国内ばかりでなく、世界市場を見据えながら事業を展開している次代を担う若手経営者らに、活力ある仙台の経済活動や人材育成の在り方、そしてこれからの時代を生き抜くために必要な価値観や視点を、(株)清月記の菅原啓太専務が聞き出します。

「自分の出産体験」が起業に結びつく

菅原 中原さんの会社は、家事代行、ベビーシッター、イベント託児、産前産後ケアを業務としています。起業のキッカケは何だったのですか。



「宮城の子育て家庭の暮らしをサポートします」
(株)キューテストが提供する「Family Sitter 仙台」の業務イメージ

菅原 その幼児体験が原点なので。中原 田舎の心地よさを持続させながら残していける仕事にしたいと、大学のインターンシップでは、福島県喜多方市熱塩温泉の山形屋を選んだり、いつも、まちづくりとは何だろうという問いかけを持っていました。

中原 私が7歳のとき、母が産後うつで亡くなったのです。私の地元である鹿角市大湯温泉の共同浴場に行くとき、近所のおばちゃんから「えりちゃん元気」と声をかけられ、背中を洗ってもらったりしたのが、ずっと頭に残っていました。この田舎の優しさを残していける「まち」っていいなと。

(株)Wasshoi Labに入社し、宮城県丸森町で地域商社の立ち上げなど地方創生事業に7年間携わりました。その後、結婚して一児を出産したときの体験が、起業に結びついていきます。

子育てのプロが家事も担う

菅原 ご自分のお産体験ですか。中原 私は、つわりがとんでもひどく、車も運転出来ず、外にも出られない生活が4カ月も続きました。産後も身体へのダメージが大きく、子育てはもちろん家事も大変でした。そのとき、母が出産うつになった気持ちがとても分かりました。

菅原 出産は、女性の身体に全治3カ月の交通事故に匹敵するほどのダメージを与えると言われます。

友人や知り合いに聞きますと、不仲関係にある母娘が多く、むしろ、お金を払って第三者に委託したほうが、産後の家事や育児を助けられる



ぶつだんギャラリー 清月記で

うな気持ちで経営されていますか。「常に王道を行くことを問い続けています」

菅原 王道を行くことを、意地でも問い続けています。価格競争が前面に出てしまうと、最悪の場合、商品価値の向上に、企業として努力しなくなる可能性があります。また、当社の価値を支持されているお客さまを裏切ることになりません。小手先の戦術ばかりですと、社員も、何がやりたいのか分からなくなり、良い仕事ができなくなり

「子育ても、企業の発展と地続きにあります」

中原 子育ても企業の発展と地続きですから、地元企業を支える子育て

の選択肢として事業を知ってほしいです。これまでには子育てを理由にキャリアが途切れたり、夫婦だけで家事育児を担っていた人たちも、ベビーシッターや家事代行に頼っていただくことで、人生の選択肢が増えるような一助になればと思っています。菅原 ありがとうございます。今後、ご活躍を期待しております。

(株)キューテスト 代表取締役 中原絵梨香氏



なかはら・えりか
1992年生まれ。秋田県出身。32歳。東北学院大学経済学部卒業後、㈱リクルートライフスタイルで「じゃらん」の広告コンサルティング営業に。その後(株)VISIT東北(現・㈱Wasshoi Lab)や丸森町地域おこし協力隊で地方創生系の仕事に携わる。子育ての社会課題解決と経済循環の両立を目指し2021年(株)キューテスト設立、代表取締役に就任。"0歳0ヶ月から頼めるベビーシッター家事代行Family Sitter 仙台"を運営、子育て中の家庭に寄り添った家事育児代行サービスを提供する。「SENDAI Social Innovation Summit2022」で最高賞の大賞含む3部門受賞。「仙台X-TECHイノベーションアワード2023」でファイナリストに選出。

プレミアム家族葬
みおくり邸 石巻駅前
(前三越石巻店跡地に新設)
グランドオープン
9/7・8 完成内覧会開催
詳細はホームページをご覧ください
清月記グループ
https://www.seigetsuki.co.jp/

「次の仙台」をどう創るか—文化力、人材育成—